

海外渡航型プログラムを再開

カナダ マレーシア オーストラリア

コロナ禍により実施を見合わせてきた海外渡航型プログラムが徐々に再開している。参加者は価値観の違いや文化の多様性を肌で感じ、刺激を受けたようだ。今号ではマレーシアでのインターンシップ、カナダ(大学)及びオーストラリア(高校)での語学研修を取り上げる。



英語への苦手意識を払拭!

「英語学習の目的意識に変化」カナダ・トロント市に本部があるヨーク大学は同国で3番目に学生数が多く、世界150カ国以上から留学生を受け入れている。藤原瑠さん(コミ2)は英語教員など英語に触れる職を視野に入れており、語学力の向上や異なる文化圏での生活をしてみたいと参加。研修ではプレゼンやディスカッション中心の授業を通して瞬発的なスピーキング力が身に付き、どんどん自信が付いていったという。「完璧な発音、文法で話さなければ」とのプレッシャーから自然と解放された。本学で履修している『英語科教育法』で学んだ舌の配置や動きを実践でき、理解が深まった点もよかつた。

「コミュニケーションにおいて重要なのは言語そのものより表情やボディランゲージだと感じた。多民族国家の人々の身振り手振りが大きいのは、『伝える』ことに重きを置いているからでは」と話す。また、取引先の男性社員から浅野さん

「海外でのコミュニケーションやビジネスを体験」伊勢市に本社を置くクロバー電子株式会社のマレーシア現地法人でインターンシップを行う本プログラム。他民族国家マレーシアでのビジネス体験を通して国際的な就業意識を養うだけでなく、異国・自国理解を深めるのが狙いだ。



充実したマレーシアでのインターンシップ

「単語がわからなくても表」浅野久瑠実さん(現日3)は「コミュニケーションにおいて重要なのは言語そのものより表情やボディランゲージだと感じた。多民族国家の人々の身振り手振りが大きいのは、『伝える』ことに重きを置いているからでは」と話す。また、取引先の男性社員から浅野さん



観光を楽しむ生徒たち

「75分間の授業中、沈黙はほぼ」参加した深田乃愛さん(2年)と栗原風輔さん(2年)は「75分間の授業中、沈黙はほぼ

本学教育プログラムが「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシール)」に認定

数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程(教育プログラム)を文部科学大臣が認定及び選定して奨励する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」。同制度の「リテラシール(基礎的な能力)」に本学が認定された。今後はより実践的な能力を養う「応用基礎レベル」認定に向け、リテラシールレベルの教育と専門教育をつなぐプログラムとなるよう計画を推進していく。

有効期限 ●令和10年3月31日まで

「会話で大事なものは積極性」皇學館高等学校ではグローバル教育の一環として平成14年にオーストラリア・メルボルンにあるローズヒルセカンダリーカレッジと姉妹校提携を結び、語学研修を実施している。令和2・4年度は中止していたが、今年度から再開。生徒10名、引率教員2名がオーストラリアに渡った。

海外インターンシップ「マレーシアプログラム」

8月20日～25日(6日間) ◆参加者2名

皇學館高校 オーストラリア研修

7月24日～8月5日(13日間) ◆参加者10名

「会話で大事なものは積極性」皇學館高等学校ではグローバル教育の一環として平成14年にオーストラリア・メルボルンにあるローズヒルセカンダリーカレッジと姉妹校提携を結び、語学研修を実施している。令和2・4年度は中止していたが、今年度から再開。生徒10名、引率教員2名がオーストラリアに渡った。



修了証書を手にする深田さん(左)と栗原さん(右)

カナダ・ヨーク大学 夏期語学研修

8月6日～28日(23日間) ◆参加者5名

英語学習の目的意識に変化

カナダ・トロント市に本部があるヨーク大学は同国で3番目に学生数が多く、世界150カ国以上から留学生を受け入れている。藤原瑠さん(コミ2)は英語教員など英語に触れる職を視野に入れており、語学力の向上や異なる文化圏での生活をしてみたいと参加。研修ではプレゼンやディスカッション中心の授業を通して瞬発的なスピーキング力が身に付き、どんどん自信が付いていったという。「完璧な発音、文法で話さなければ」とのプレッシャーから自然と解放された。本学で履修している『英語科教育法』で学んだ舌の配置や動きを実践でき、理解が深まった点もよかつた。

「海外でのコミュニケーションやビジネスを体験」伊勢市に本社を置くクロバー電子株式会社のマレーシア現地法人でインターンシップを行う本プログラム。他民族国家マレーシアでのビジネス体験を通して国際的な就業意識を養うだけでなく、異国・自国理解を深めるのが狙いだ。

「75分間の授業中、沈黙はほぼ」参加した深田乃愛さん(2年)と栗原風輔さん(2年)は「75分間の授業中、沈黙はほぼ

皇學館学園報

第97号 令和5年9月



■注目記事

アカデミック 2面
皇學館高校が鈴鹿医療科学大学と高大連携協定を締結

カルチャー&スポーツ 3面
学生29名が「御花神饌づくり」を体験

特別企画 4・5面
教員×学生座談会
皇學館大学の「学びの質・環境」を考える

中高トピックス 6面
皇學館高校・中学校でオープンスクールを開催

7面
4年ぶりに一般公開
第62回 倉陵祭開催のお知らせ

アクティヴスチューデント 8面
梅村元香さん(国史1)が「南拳」「南刀」で優勝
第40回全日本武術太極拳選手権大会

■シリーズ 7面
皇學館ライブラリー③
非来館型サービス、企画展示が充実

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学 大学院 文学部 教育学部
専攻科 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)



作家・司馬遼太郎は令和五年八月に生誕百年を迎えた。司馬を巡る人物の逸話がある▼一人は「街道をゆく」の「13巻岐・対馬の道」に登場するAである。この人が神宮皇學館で学んだことから、司馬が皇學館を紹介している。その中で、「あの学校はかつて国漢教師養成の名門校の一つで、その卒業生は私の知りうるかぎり、右翼的な傾向のひとはおらず、たとえば本居春庭をとりあつた『やちまた』の著者足立巻一氏のように江戸中期の日本的な人文科学の思考法の合理的な部分をうけついでいる人もいる」と記した▼司馬は卒業生から学校の評価をしているわけである。実は卒業生名簿にはAつまり青木幸次郎の名は無い。そのミステリアスなところも興味を引く▼もう一人は本学学長を務めた西宮一民である。産経新聞の昭和34年2月6日に「活用」というコラムを寄せ、テレビによる一億総白痴化論に対してむしろ積極的に活用すべきだと説いた。その筆者欄には(西宮一市民とあつた。産経の当時の校閲記者が司馬だつた。西宮の一市民に間違えられたのは、投書的な主張だつたからだろうか。

令和5年度皇學館館友会全国大会を開催

館友会創立百三十周年の佳節を祝う



旧交を温めた館友たち

残暑厳しい8月27日、静岡市のグランディエールブケトーカイにおいて令和5年度館友会全国大会が開催された。当日は神宮大宮司代理の杉谷正雄様、静岡県神社庁長の河村基夫様、本法人の小串和夫理事長をはじめ多くのご来賓の方をお招きし、あわせて約190名の卒業生らが集った。

千秋季頼会長は冒頭、「今年は館友会創立百三十周年という記念の年です。明治26年に発足して以来連綿と受け継がれてきた歴史ある組織です。これからもこの歴史が途絶えることのないよう、私たち卒業生が母館を支えていきたいと思います」と挨拶を述べられた。その後議事を経て、本学1期生で磐田市文化財保護審議会副委員長の小杉達様を講師に「家康と慶喜」との演題で記念講演を行った。

続く懇親会では、今大会を主催していただいた甲田吉孝静岡県支部長から歓迎の挨拶の後、舞踊や民謡が披露された。年齢の垣根を越えて同窓生同士懇親を深め、最後は恒例の精華寮寮歌を全員で輪になって合唱。母館の地・伊勢にて開催する来年度大会での再会を約束し、惜しまれながら散会となった。

夏期休暇中、教採対策講座を開講

教員採用試験2次試験を直前に控え、8月1日から18日にかけて各種の対策特別講座が開かれた(下表参照)。

教採2次(実技)対策特別講座で英語(リスニング)を指導した豊住教授は「難しいと身構えず、落ち着いて取り組むことが大切。問題と質問文は2回繰り返して流れるので、1回目で聞き取れなくても焦らないで」と心構えを伝授。小学校2次対策(体育模擬授業)を受講した学生は「三重県の2次試験は実技試験がなくなり、体育と音楽の模擬授業が追加された。初の試みのため手探り状態だが、先生がいろいろと質問に答えてくれるので本当に心強い」と語り、中高保健体育の実技対策(マット・球技など)に参加した学生からも「他の人の動きを見ることができ参考になる」「先生が専門的なことを教えてくれるのでとても助かっている」と手厚いサポート体制に感謝の声が上がった。



英語のリスニング対策に取り組む学生



加藤教授の指導のもと実技に励む

●教採2次(実技)対策特別講座		
8/1	音楽(ピアノ)実技相談会	高橋摩衣子 准教授
8/2	英語(リスニング)対策	豊住 誠 教授
8/7・8	実技対策(マット・球技など) 中高保健体育	加藤 純一 教授
8/9・10	小学校2次対策(体育模擬授業)	
●「倉志会」夏期特別講座 8/12		
●「つばさ」夏期特別講座 8/12・17・18		
●三重県教採2次対策教職アドバイザー面接試験指導 8/13・14		

皇學館高校が 鈴鹿医療科学大学と 高大連携協定を締結

皇學館高等学校と鈴鹿医療科学大学との 高大連携に関する協定調印式



調印式での芝崎校長(左)と豊田学長

医療分野への従事を志す生徒を支援しようと、皇學館高等学校は鈴鹿医療科学大学(鈴鹿市)と高大連携に関する協定を締結した。

本協定は、地域における医療系人材の育成をめざす同大

学からの呼びかけに本校が応じ実現したもの。もとより本校から同大学へは毎年20人ほどが進学しており、進路ガイダンスに同大学の教員が参加するなど交流を深めてきた。

8月29日に同大学白子キャンパスにて行われた調印式で芝崎俊也校長は「医療分野を通して社会に貢献したいとの思いを有する生徒の進路実現につながる」と期待を述べ、

豊田長康学長は「高大連携が進化することは喜ばしい。大学の教員、学生と直接触れて、より目的意識やモチベーションを醸成してほしい」と挨拶した。

今後、同大教員による本校での出張講義や同大での見学会などを行っていく予定だ。なお、本協定の有効期間は1年間で随時更新する。協定内容は以下の通り。

- 1 特別講義・見学会など教育の連携に関する事項(大学教員による出張講義、大学への見学会、大学の模擬講義への参加受け入れ、探究活動への協力支援等)
- 2 指定校枠(学校推薦型選抜)の拡充に関する協議事項
- 3 その他、必要と認める連携事業に関する事項

令和4年度 優良教育実践 谷戸准教授、萩原助教が選ばれる

授業改善等に著しい貢献をしたとして、「令和4年度優良教育実践」に国史学科・谷戸 佑紀准教授、教育学科・萩原浩司助教が選出された。

歴史資料の効果的活用とその方法の体系化



国史学科 谷戸 佑紀 准教授

谷戸佑紀准教授は古文書・古地図・写真など複数の資料と学習補助ツールを効果的に

用い、専門的知識・技能の取得が十分ではない段階の学生であつても主体的に歴史研究に取り組めるモデルを構築した。実践ではくずし字の初学者でも効率的に判読できるよう、「AIくずし字認識アプリ」を使って未翻刻の「小串家文書」

(多度大社社家の伝来文書)と「七ざい所巡みちしるべ」(近世の参宮案内記)を解説。得られた情報をもとに古地図と現在の地図等多様な資料を比較して現存する神社や旧跡、景観の歴史の変遷を具体的に考えられるよう工夫した。従来、部分的に導入されていた手法だが、これらを組み合わせ体系化した点が高く評価された。

授業実践力向上を目指した演習科目の取り組み 『つばさ』における学生の課題を基に



教育学科 萩原 浩司 助教

萩原浩司助教は教員採用試験対策勉強会「つばさ」を指導する中で学生が授業実践に不

安を感じていると把握。児童が関心を持つ課題の設定や発問・問いかけの仕方、児童の発言の生かし方といった具体的な対応を学んでほしいと、令和3〜5年度の「児童社会」の授業において具体的な児童とのやり取りを含んだ模擬授

業を実施し、指導を行った。学生が指導案を作成する際も児童の発言等に具体性を持たせ、実演させることで実践力の向上を図った。令和4年度のオープンキャンパスで「つばさ」の模擬授業練習の実演を複数回行ったところ、来学者から好意的な評価を受けた。これらのことから、学生たちの授業実践力を高めることができたといえる。

令和6年度実施の教採試験が 1カ月前倒し 説明会を開催

5月31日、文部科学省より公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等について方向性が提示され、来年度実施の教員採用選考試験の第1次選考の実施日程について、6月16日(土)の目安(基準日)としてできるだけ前倒しを積極的に検討するよう、各教育委員会に向けて依頼があった。



教採試験早期化に伴う対応について説明を聞く学生たち

これを受け、令和6年度実施の教員採用試験は例年より1カ月ほど前倒しして実施するとみられる。本学では教員採用試験の早期化に伴う対応についての説明会を7月27日に実施。教員採用試験の動向や教育実習に係る科目の配当セミナーの変更などについて学年別に説明した。また、令和6年度の

令和6年度実施 教員採用試験の第1次試験日程		
静岡県、静岡市、浜松市	5月11日(土)・12日(日)	教育実習が教員採用試験の第1次試験日と重複しないよう、三重県小中学校長会、三重県立学校長会(旧三重県高等学校長協会)及び実習校に教育実習の日程変更を依頼していく。
愛知県、名古屋市、岐阜県	6月15日(土)	
三重県	6月15日(土)	

Culture & Sports
カルチャー&スポーツ

心游舎ワークショップ
学生29名が「御花神饌づくり」を体験

彬子女王殿下が総裁を務められ、本学も会員である「心游舎」ワークショップが8月8日、本学・佐川記念神道博物館において催された。コロナ禍により4年ぶりの開催となった今回、博物館学芸員を目指す学生29名が「御花神饌」づくりを体験した。

御花神饌とは古代染めの和紙で作られる造花を京都・石清水八幡宮で毎年9月15日行われる勅祭・石清水祭にお供えされる12種類の御花神饌の一部を制作するもので、本学での開催は平成27年に続き4回目となる。

冒頭、松本丘研究開発推進センター長の挨拶があり、続いて彬子女王殿下のお話があった。次に、採取した各種の枝や、化学染料を一切使用しない古代染めの技法の復元による取り組み等で活躍されている染織家・吉岡更紗氏が講話をされた。



ご挨拶される彬子女王殿下

その後、参加した学生は6グループに分かれ、いよいよ御花神饌づくりに挑戦。染色工房「染司よしおか」の方々の手ほどきのもと、古代染めが施された和紙やお米の糊など、普段使い慣れない繊細な作業に苦戦しつつ、真剣な表情で紅白の梅の花と南天を丁寧作り込んでいた。



学生にやり方を手ほどきされる彬子女王殿下

御花神饌づくりに携わった本田菜々子さん(神道4)は「今回、彬子女王殿下とご一緒に石清水祭に奉られる御花神饌を作らせていただき、大変光栄な1日でした。繊細な作業が多く、なかなか上手く作ることができない点もありましたが、真剣に楽しく心を込めて作らせていただきました。伝統を知るだけではなく、体験をすることができ、より自身の学びが深まりました」と語っていた。

本学教員と学生代表計6名が石清水祭に参列し、学生全員で協力して完成した紅白の梅の花と南天をお納めした。

7年ぶりに
神社スカウト全国大会開催
約1100名が本学に結集



感謝状を受け取る河野訓学長

「つなげよう 伊勢の地に学ぶ 生きる力」をテーマに8月5日から7日にかけて神社本庁主催の「第13回神社スカウト全国大会」が本学等を会場に開催された。コロナ禍での延期もあり、7年ぶりとなった今大会には、59団体約1100名が参加した。初日の5日は本学記念講堂にて開会式が執り行われ、本学 小串和夫理事長が来賓祝辞を述べた。翌6日は参拝行進の後、本学図書館や佐川記念神道博物館、神宮徴古館等の史跡探訪をし、他の団と交流を深めるなど貴重な機会となったようだ。本学記念講堂での閉会式では彬子女王殿下よりお言葉を賜った。また、大会長である神社本庁総長 田中恒清氏から本学への感謝状が贈呈された。

萼の会(大学保護者会)
地区別教育懇談会を6会場で開催



「地区別教育懇談会」は大学の教職員が全国の会場に赴き保護者の皆様と学修状況や就職等について、情報交換を行う機会として開催しています。今年度は、全国6会場(福岡・大阪・浜松・名古屋・津・伊勢)に265名が集い、「全体会」において、萼の会本部役員の挨拶、学長挨拶、大学の現況報告。また「個別懇談会」では、各学科の教員が保護者に対して履修状況や成績及び学生生活、就職について説明し、質問や相談に適宜応じた。

〈学内活性化〉3件、
〈地域との連携〉1件を採択
令和5年度チャレンジプロジェクト

学生が主体となって「学内活性化」「地域との連携」に取り組むチャレンジプロジェクト。令和5年度は4活動が採択された。

サポート教員	代表	概要
学内活性化		
めっちゃええ(e)スポーツ大会		
佐藤武尊准教授	長谷 亮佑 (教育4)	スポーツ活動を通して学内を活性化
皇學館大学リトルフリーライブラリー設置プロジェクト		
岡野裕行准教授	中村 始桜 (国文3)	学生・教職員が私物図書をシェアし交流を図る
皇學館ULCプロジェクト～大学の魅力再発見～		
長谷川怜准教授	山本 謙利 (国史3)	主に図書館で学生による小規模展示会を開催
地域との連携		
SDGsを食の視点から考えるプロジェクト		
駒田聡子教授	江上 晃太 (教育3)	フードパントリーの設置等

夏休み親子教室に53組128名が参加
佐川記念神道博物館



「和本ノートを作ろう」での糸綴じ作業

佐川記念神道博物館による夏休み親子教室が7月30日、8月4日に開催された。この教室は日本の伝統文化や郷土文化に関する体験を通して、子どもたちに日本人の感性や心を学んでもらうことを目的としている。昨年度より佐川記念神道博物館学芸員監修のもと、本学の学芸員課程履修生が企画・運営をしており、多くの方にお申し込み・ご参加いただいている。



器用にハサミで切り取る参加者

今回は「立版古を作ろう」(7月30日)、「和本ノートを作ろう」(8月4日)を企画。両日とも好天に恵まれ、伊勢市内の小学生とその保護者、計53組128名にご参加いただいた。それぞれの教室では浮世絵や和本の歴史を学んだ後、グループに分かれ学生が子どもたちに作り方を教えた。ハサミやカッター、製本用針などを使用する細かい作業が多

いが、本番ではそれ以上の達成感があり、開催してよかった」と、参加者に満足いただけた喜びを噛みしめていた。学芸員を志す学生にとって、実際の博物館におけるワークショップ企画を体験する大変貴重な機会となった。

神饌調理で「命への感謝」
「思いやり」を学ぶ

神明に対する奉仕を実際に体験し、将来指導神職となるに必要な基礎的資質を養うことを目的に、7月8日、22日の両日、833教室において神職課程履修者(学部生・神道学専攻科)の学生67名が指定実習Ⅰ(神饌調理)を行った。

最上のおいしさ、美しさで神様に供えるべく、学生たちは慎重な手つきで取り組んだ。直会用として鯛の松皮づくり、鯛のごま茶漬け、鯛のほぐし身入り生姜ご飯を完成させた。



高校生レストランを指導した元相可高校教諭の村林新吾さんに指導を仰ぐ



三船麗愛さん(神道1)は「鯛の背びれで指をケガした際、鯛の生き物としての力強さを実感し、命の重み、命をいただくとはどういうことなのか、非常に考えさせられた。自分たちが常に数々の命によって生かされていることを忘れてはならない」と語り、鈴木翔大さん(専攻科)は「味だけでなく、おいしく見える飾り付けといった、相手を思いやる気持ちは大切だと気付いた。神饌調理に限らず、何をやるにおいても思いやりを持って取り組んでいきたい」と感想を話した。

【特別企画】教員×学生座談会

～学生の声をより豊かな学びに生かす～

皇學館大学の「学びの質・環境」を考える



歴史と伝統を踏まえつつ、本学が今後の展望として策定した「第2期中期行動計画」(令和2年度～令和6年度)。同計画では「大学教育の『学び』の質保証・学修者本位の教育への転換」「学生の主体性、可能性を伸ばす学生支援」等を事業の柱に掲げ、さまざまな教育改革を推し進めている。今回は「内部質保証」の取り組みとして9月5日に座談会を開き、カリキュラムや支援体制、施設・設備等について教員と各学部の学生が意見を交わした。

[第2期中期行動計画はこちらから▶](#)



学修について

筒井教授●本日、司会進行を務めます。本学の教育の質向上に向け、学生の皆さんから率直な意見をいただき、改善につなげていきたいと考えています。では、さっそく、我々教員と学生さんを結ぶ架け橋となっているシラバスについて伺います。普段シラバスをどの程度活用し、意識していますか？



筒井琢磨教授

ます。学内での活動などがあり、日程を調整する必要があります。**中村**●基本的に興味のある分野を取るのではありませんが、テストやレポートの有無、試験の形式などは確認します。シラバスには記載されていないことが授業で行われたことがあります。

シラバスは変わるもの

大杉教授●実のところ、シラバスは授業の進行状況などによって修正することがあります。とくにコロナ禍では教員も手探り

状態だったのでかなり修正しました。

岡野教授●大杉先生のおっしゃる通りで、シラバスは生きもの。我々教員も日々懸命に授業改善に取り組んでおり、授業の進捗状況に鑑みながら調整することはありません。一方で、学生の多くはシラバスが変わるものであることを知らない。毎週確認するのは大変ですが、気に留めてもらえるありがたいですね。

筒井教授●今年の1年生からノートパソコンが必修化されたことに伴い、パソコンでシラバスを確認しながら受講できるので、ぜひ活用してほしいと思います。**岡野教授**●シラバスに書いてある成績評価基準についてはいかがですか。記載通りに履行されていますか？

中村●テストや出席日数など数値化されているもので違うと感じたことはありません。

服部●テストやレポートを提出しても返ってくる教科が少なく、最後に成績が付いて「そうだったんだ」と思うことが多いです。また、テストや出席日数など成績に関係する部分は同じなのに評価が異なる点があると、何の違うのだろうと疑問に感じたりはありますか？

森●自分の間違ったところや足りない点がわからないと、今後に生かせませんよね。きちんとフィードバックがあると改善できますし、納得のいく成績評価につながると思います。

岡野教授●教員もフィードバックすべきだとわかってはいるが、なかなか返せていない現状を認識しました。改善していくべき案件だと思います。

大杉教授●ミニッツペーパー等に関して私は必ずフィードバック



岡野友彦教授

クしています。履修人数が少ないときは全てコメントして、履修者が多い授業では何人かを抽出して紹介するようにしています。最終テストを最後に持つてくると返す機会を失うので、その点は検討の余地がありますね。**筒井教授**●振り返りも大事な時間との認識を改めて持ち、有効なフィードバックをしていくことを心掛けます。事前・事後学習についてはいかがでしょうか？

服部●事前・事後学習したことが授業に反映されるとやはりやる気が出ます。

森●事前学習で示された内容が授業で触れられないこともあると、とりあえず出しておけばいいと考えるようになってしまいました。授業で活用されるとモチベーションが維持できるので、授業に生かしてほしいです。

岡野教授●事前・事後学習をきちんと課すと、CAP制(履修単位の上限設定)を厳格化しないといけない問題がありますよね。

服部●教育学部に関していえば複数の免許・資格の取得をめざしたり、興味のある分野を学ぼうとする履修科目が多くなつてしまっています。学びに意欲的なのはいいことなので、難しい問題だと思っています。

大杉教授●教育学部は1年の春学期が空き気味で、3、4年になるとかなり詰まってきます。この辺りを万遍なくできないかなと。ほかの授業と重なる点は改善が必要で、先生同士、シラバ

スの連携を図っていきたく思います。

筒井教授 ●CAP制については何とか解決策を見出したいと思

います。双方向授業(*2)やアクティブラーニング(*3)、manaba、C L L活動について

機能がとても役立ちました。1年次に調べたことを閲覧できるので改めて調べ直す必要がなく、積み重ねていける点がありがたいです。

服部 ●responの投票機能など、自分の意見や生の声が反映された授業は参加している喜びがあります。グループワーク(アクテ

が、どの活動もなかなか後輩が入ってこない課題を抱えているように思います。今年は倉陵祭にC L L活動が参加するので、魅力や楽しさを発信できればと考えています。

中村 ●30人いるゼミもあれば4人のゼミもあり、人数が偏っても同等の指導を受けられるのか疑問に思うことがあります。

森 ●私がC L L活動を始めたきっかけは先輩の「楽しいよ」との言葉でした。実際に携わっている人の話は説得力があるので、最初は学生、次いで大学側がメリットを提示してはいいか

中村 ●manabaは新聞などの資料を自宅に居ながら集められる機能が素晴らしい。

大杉教授 ●車での移動については許可される場合もあります。いきなり「今日使いたい」と言われると困りますが、保険などの条件を満たして事前に地域課題学修支援室に相談してもらえればある程度融通が利くかと思



中村悠真さん

支援について

筒井教授 ●指導教員制についてはいかがですか。

服部 ●指導教員の先生が付いてくださることで安心して学生生活を送れます。

岡野教授 ●中村さんの話はおそらく学科特有の問題。人数の上限を決めると希望通りにいかないケースが出てくるので、どちらを優先させるか、兼ね合いが難しい。

教員が学生をしつかり支えるこの思い

筒井教授 ●説明責任を果たすよう徹底したいと思えます。学修・進路支援についてはいかがが

森 ●就職担当には本当にお世話になっていて、学生の目線で寄り添ってくださるのでありがたいです。大学への要望としては、面接など就職活動に関する欠席を要配慮の欠席にしてもらえると

思います。大杉教授 ●夏期休暇中も休み返上で特別対策講座を実施して

り、今年は学校閉鎖期間中も開講しました。それが皆さんの成果につながっているのであれば、これほど嬉しいことはありません。感謝の言葉をかけていただきたくと励みになります。



森 知帆里さん

環境(施設・設備)について

筒井教授 ●クラブハウスや倉陵会館(食堂、図書館)については

いかがですか？中村 ●夏場のクラブハウスはとも暑いので、すべての部屋にエアコンを設置するなど熱中症対策を施してほしいです。

森 ●第一グラウンドにもう少し高さのある防球ネットを整備してもらえると、トラック競技と

ファイールド競技の間で未然に事故やトラブルを防げると思うのでぜひ検討してください。

中村 ●食堂は回数券を販売すれば混雑の解消につながるかなと2階にポットや残飯を捨てる

ところがあればなお便利だと思えます。服部 ●倉陵会館は2階が暑く、夏場の利用は控えています。以前はみんなでワイワイ食べられ



服部まりさん

服部 ●今年はお盆に教員採用対策講座や面接試験指導、実技指導などを実施していただき、感謝しかありません。他の大学と比べても、ここまで手厚いサポートはないと思えます。

大杉教授 ●WiFiに関してはコロナ時に対策しており非常に電波が強い状況です。ただ、建物ごとになぎ直さなければいけないのは我々も苦勞している。承っております。

大杉教授 ●いろいろ見落としのあることがよくわかりました。ほかに気になる点はありますか？

森 ●オンラインでインターンシップができるなど、就職活動用のスペースがほしいです。服部 ●模擬授業の練習場所がほしいです。

大杉教授 ●たしかに倉志会とつばさ両方が模擬授業できる教室があるといいですね。

岡野教授 ●率直な意見を聞かせてもらえたことで、本学にとつて貴重な反省の機会になりました。

筒井教授 ●本日の話をもとに改善に向け努力していきます。ありがとうございます。

用語解説

- * 1 CAP制…大学における単位制では、1時間の講義の授業時間に対して2時間に相当する事前・事後学習が必要とされている。この単位制度を実質化し、質の高い学修を保障するため、1年間で履修登録のできる単位数を制限する。
- * 2 respon…学生が自身のスマートフォンで使用する出席管理機能付きのコミュニケーションツール。教室内の全学生がリアルタイムに回答結果や他学生の意見などを閲覧できる。
- * 3 manaba…課題管理や情報発信機能、レポートや評価が自動的に蓄積されるポートフォリオ機能により学修をサポートするクラウド型教育支援サービス。
- * 4 指導教員制…全教員が1学年10名ほどの学生を受け持つ制度。3、4年生はゼミ担当教員が指導教員となる。
- * 5 GPA…「Grade Point Average」の略で、科目の評価をグレードポイント(GP)に換算し、1単位あたりのGP平均値を算出するもの。本学のGPAは、履修登録した科目毎の5段階評価(秀、優、良、可、不可・放棄)を4から0までのGPに置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点。

のべ1857名が来場 8月からは学食体験も 令和5年度 オープンキャンパス



神道学科体験型プログラム

6月から8月にかけて、オープンキャンパスを4日間開催した(8月は2日間)。新型コロナウイルスの第5類移行に伴い事前予約が不要となり付添者の人数制限も撤廃されたため、受験生のみならずご家族の皆様にも多くご参加いただいた。猛暑や天候不順にもかかわらず、のべ1857名の参加者数であった。

内容は未来発見セミナー(6月)、模擬講義(7月)、体験型プログラム(8月)、AO対策講座(8月)と時期に合わせて、多彩な角度から本学を理解していただくプログラムを実施。加えて入試説明、大学説明、学科・コース説明、個別相談、キャンパスツアー、保護者説明などを毎回実施した。会場内では親子で熱心にメモを取りつつ、進路研究をする光景が至るところで見られた。また、毎回多くの学生スタンプが揃いのポロシャツを着て参加。プログラムの司会やキヤンパスツアーの引率など終始笑顔で対応し、大活躍であった。

参加者からは「ホームページだけではわからない、皇學館大学の魅力を感じられた」「自分の将来が想像できる良い機会になった」「個別相談で、先生方に親身になって相談にのっていただいた」などの声をいただいた。

8月には長く自粛していた「学食体験」を事前予約制で再開し、学食自慢のメニューである日替わり定食や伊勢うどん、鶏唐マヨ丼を参加者に楽しんでもらった。

次回は学校推薦型選抜を直前に控えた10月28日(土)(10時~12時30分)に倉陵祭と同時開催し、入試説明、個別相談を中心

に実施する。



受付の様子

トルコ&ドイツより留学生が来校

6月26日、トルコより留学生、松山 セイヤダ 天瑠 ファティマ ギラニさんが来校。約3週間の学校生活を満喫した。英語、日本語、ウルドゥー語を話し、中国語、トルコ語も理解できる天瑠さん。クラスメイトたちとすぐに打ち解け、休み時間など楽しそうにおしゃべりする姿が見られた。



手形を押し旗作りに参加する天瑠さん

また、8月31日にはドイツから島田莉彩さんが来校した。島田さんはドイツ人と日本人のハーフ。12月22日までの予定で1年生とともに学習する。以下に天瑠さんの感想、島田さんの挨拶を抜粋して紹介する。

クラスの一員として関わられた喜び

松山 セイヤダ 天瑠 ファティマ ギラニ

私は、日本の高校で学校生活を送るという体験を通して、日本の礼儀作法、規則、そして生活様式など様々なことを学びました。授業はとても魅力的で、特に印象に残っているのは「言語文化(古典)」「現代の国語」「書道」です。書道ではわずかな筆の動きの違いによってできる作品が全く違ったものになることを学びました。また、友人と一緒に食べるお弁当の時間は本当に楽しい時でした。生徒用の

流しながきちんと整備されているのも衛生的だと思いました。クラスの一員としてクラスマッチ大会の旗作りに関わられたことは大きな喜びでした。

ほんの短い期間でしたが、このような貴重な機会が持てたことは自分にとって有益な経験となりました。皆さんに感謝するとともに、皆さんのご多幸をお祈りしています。



皆さんと仲良くできたら嬉しい

島田 莉彩

こんにちは。はじめまして、私の名前は島田莉彩です。16歳です。ドイツ人と日本人のハーフで、ドイツから来ました。

ドイツではギムナジウム*という学校に行っていて、9月から11年生になります。ドイツでは小学校から学年を数えていくので、高校1年生は10年生と11年生と同じ学年になります。

ドイツでは文系の学校に通っており、英語とヨーロッパの古代の言葉を習っています。日本語を話せるので、ぜひ話しかけてください。みなさんと仲良くできたら嬉しいです。よろしくお祈りします。

*ギムナジウム
大学進学を前提とした中等教育機関



“清明正直”の校風を体感 中学校では中大連携の取り組みも

高校・中学校でオープンスクールを開催

9月2日、3日に皇學館高等学校の本年度オープンスクール第1回が開催され、多くの来場者で賑わった。学校・入試説明や吹奏楽部による歓迎ミニコンサートが行われたほか、自由参加のクラブ見学や校舎内施設見学(シールラリー)を実施。参加した中学生と保護者は個別進学相談会で質問したり、興味のあるクラブを見て回り、校風を体感できたようだ。



学校説明をする飯田さん(高校)



記念講堂でプレゼンしている内田さん(中学)

皇學館中学校では9月9日に小学3～6年生を対象に部活体験会&施設見学会が行われた。部活体験会は未来理工部、バドミントン部、卓球部が参加。今回初めての取り組みとなる特別施設見学会(希望者)は大学の記念講堂や約44万冊の図書が所蔵された大学図書館、神宮皇學館時代の本館である記念館を案内し、本校の伝統や歴史、スケールメリットを知っていただく機会とした。

ドッチビーで盛り上がる クラスマッチ

7月14日、15日にクラスマッチ「ドッチビー」が行われ、大いに盛り上がった。「ドッチビー」とはドッチボールのボールをウレタン製のディスクに変えたゲーム。柔らかいためケガのリスクが少なく、小学生の間で人気を呼んでいる。

1日目は学年予選が行われ、2日目は順位に分かれてトーナメント戦が開かれた。



クラスマッチ結果

順位	トーナメント	A	B	C
優勝		2-3	2-2	2-6
準優勝		2-1	3-8	2-8
3位		3-5	3-1	3-3

みんなが気持ちよく参加できるクラスマッチに

総務副委員長 岡本 兼成(2年7組)

今年のクラスマッチはドッチビーを行い、7月14日と15日の2日間実施しました。各クラスとも本番前にクラスの選手たちと作戦を立てたり、前半と後半に誰が出るかを考えたりと、全員で話し合って当日に臨みました。また、男女混合ということもあつたか、どれも白熱した試合になり、応援の

方もこの日のために前々から準備してきたかと思うような熱気にあふれたものでした。私は審判やトーナメント表の作成など本部の運営をしていました。今後も先生方や校友会のメンバーたちと事前に話し合い、みんなが気持ちよく参加できるクラスマッチにしていきたいと思いました。

中大連携

「ドローンプログラミング体験」に 未来理工部が挑戦

大学との連携講座「ドローンプログラミング体験」が5月から7月にかけて計6回実施され、未来理工部の生徒9名が参加した。ドローンを自在に操ることを目標に、教育学部の大杉成喜教授とゼミ生による



専門的な指導を受けながらプログラミングや操縦に取り組んできた生徒たち。角度や距離をタブレット端末に入力しては実際にドローンを飛ばし、何度も失敗を繰り返しながら最終的にはイメージ通りに飛行させることに成功した。同部の中山湧斗さん(3年)は「ドローンが動かなくなってしまうときの対処法やドローンをどうプログラミングすれば行きたいところに行けるかなど考える力の必要性を学ぶことができた。これからは考える力を生かして大会で良い結果を残せるよう頑張りたい」と話した。

三重県私立中学校フェア2023に参加

7月30日にメッセウイング・みえで「三重県私立中学校フェア2023」が開催され、本校を含め県内の私立中学校10校が参加した。当日は学校別体験教室「チリメンモンスターの生物でミニ水族館をつくろう～生き物の多様性を学ぶ～」や個別相談会、合同企画英語体験コーナー等が実施され、来場者は興味深そうに各校のブースを回っていた。教員のサポート役を担ってくれた12名の生徒のうち、山下輝之さんの感想を掲載する。



教える難しさがわかった

3年A組 山下 輝之

私は理科体験教室の司会を担当し、1講座30人くらいの小学生を前に、司会進行や先生の助手として授業に携わる経験をさせていただきました。

小学生にわかりやすく教えられるようにと、事前に何度も練習を重ねましたが、そう簡単に思いは伝わらず、教えるということの難しさがわかりました。私自身

が今後磨きをかける部分として受けとめました。

参加してくださった小学生のみなさんは初めて会った私たち中学生に対しても、「ちょっと前を向いてね」とか「ここ大事だよ」などの声かけを素直に聞き入れてくれたのですごく嬉しかったです。

イベントカレンダー

各講座の詳細は本学ホームページでご確認ください。
🕒時 📍所(🏠本学 🏡他) 💰料金 🎯対象 📅予約 📞問合先

10月

2月 佐川記念神道博物館企画展
ある伊勢御師の軌跡
—新発見・橋村家伝来資料から—
🕒10月2日(月)～11月30日(木)
📍佐川記念神道博物館 🆓無料

21日 ギャラリートーク
(神道博物館教養講座 第3回)
講師 小林郁(研究開発推進センター助教)
🕒①9:30～ ②10:40～ ③13:30～ ④14:40～
📍佐川記念神道博物館 🆓無料 🎯一般
📅必要(定員各回20名)
📞研究開発推進センター 0596-22-6466

7日 月例文化講座
財産管理のサポート—日常生活
自立支援事業と成年後見制度—
講師 鶴沼憲晴(現代日本社会学部教授)
🕒14:00～ 📍本学431教室 🆓無料 🎯一般
📅必要(定員90名)
📍地域連携推進室 0596-22-8635

14日 史料編纂所古文書講座 第3回
中世文書を読む
—中世御師文書の世界①—
講師 小林郁(研究開発推進センター助教)
🕒13:00～ 📍佐川記念神道博物館 🆓無料
🎯一般 📅必要(定員30名)
📞研究開発推進センター 0596-22-6466

27日 NIPPONの原点を学ぶ 三重の魅力発信セミナー
「海」と「山」の熊野古道
—人々はなぜ山路を歩いたのか—
講師 多田實道(文学部教授)
🕒19:00～ 📍三重テラス2階多目的ホール(東京)
🆓無料 🎯一般 📅必要(事前申込制・先着順)
📍三重県生涯学習センター 059-233-1151

28日 近鉄文化サロン阿倍野 共催講座
1日・短期講習会『日本書紀』を
読む—清寧天皇・顕宗天皇・仁賢天皇—
講師 大島信生(文学部教授)
🕒15:30～17:00 📍あべのand近鉄文化サロン阿倍野
📍有料 🎯一般 📅必要
📞近鉄文化サロン阿倍野 06-6625-1771

11月

11日 月例文化講座
日本の外交安全保障と中国、ロシア、
北朝鮮—我が国の平和と独立を守り抜くために—
講師 村上政俊(現代日本社会学部准教授)
🕒14:00～ 📍本学431教室 🆓無料 🎯一般
📅必要(定員90名)
📍地域連携推進室 0596-22-8635

18日 神道博物館教養講座 第4回
伊勢の石仏・石塔
講師 竹田憲治(元三重県文化財センター所長、本学非常勤講師)
🕒14:00～ 📍本学431教室 🆓無料 🎯一般
📅必要(定員90名)
📞研究開発推進センター 0596-22-6466

12月

2日 月例文化講座
政府の「骨太方針」と地方の活性化
講師 新田均(現代日本社会学部教授)
🕒14:00～ 📍本学431教室 🆓無料 🎯一般
📅必要(定員90名)
📍地域連携推進室 0596-22-8635

16日 史料編纂所古文書講座 第4回
中世文書を読む
—中世御師文書の世界②—
講師 小林郁(研究開発推進センター助教)
🕒13:00～ 📍本学212教室 🆓無料
🎯一般 📅必要(定員30名)
📞研究開発推進センター 0596-22-6466

附属図書館特別展示会のお知らせ
中村麻美作品展
9月27日(水)～10月5日(木)。(10月1日・2日は休館)
三重県津市出身の画家・挿画家 中村麻美さんの作品展を本学附属図書館で開催いたします。ぜひお楽しみください。
開館時間 平日 9:00～20:00 土曜 9:00～17:00
※開館時間を変更することがあります。学外者の方の入館には手続きが必要です。身分証明書をご持参ください。
後援 ●伊勢市、玉城町、日本武道館、三重県立津西高校
中村麻美 偉人の逸話、歴史の名場面が専門
津田塾大学学芸学部国際関係学科卒。在学中、深層心理学から日本人の精神性を研究。日本画塾で作画を学ぶ。「伝えたい日本のこころ」シリーズでは語り継がれるべき日本人のよい行い、精神伝統を伝える物語を描く。 [中村麻美さんHP](#)

Information インフォメーション

皇學館中学校

募集人数 S日程(特別専願)10名程度
A日程(一般・専願)25名程度、併せて35名

S日程

出願期間	令和5年12月11日(月)～ 令和5年12月27日(水) 15:00まで
出願方法	インターネット出願
試験日時	令和6年1月5日(金) 8:35集合
入試科目	PBLプレゼン型 館友推薦型 基礎学力試験、課題解決調 基礎学力試験、 べ学習とプレゼンテーション 作文

A日程

出願期間	令和5年12月11日(月)～ 令和6年1月6日(土) 23:59まで
出願方法	インターネット出願
試験日時	令和6年1月8日(月・祝) 8:35集合
入試科目	一般型 専願型 国語・算数・社会・理科・英語 国語・算数 ※国・算必須。社・理・英から2教科 選択し、得点の高い1教科採用 ※英語外部試験の有資格者に加点

オープンスクールのご案内

第2回オープンスクール2023

～皇學館で学ぼう～

11月5日(日) 学校説明・入試説明・入試対策授業 など

※HPにて申込が必要になります。約1カ月前から受付開始予定です。

問合せ先

皇學館中学校 TEL 0596-23-1398(代)

令和6年度生

皇學館高等学校・中学校募集要項

詳しくはホームページの募集要項をご覧ください。

皇學館高等学校

募集定員	315名(内部進学者含む)
募集コース	進学コース・特別進学コース
願書受付	令和5年12月4日(月)～ 令和6年1月5日(金) 15:00まで
出願方法	インターネット(WEB)出願
試験日	令和6年1月25日(木)
教科	国語・数学・英語・理科・社会

オープンスクールのご案内

下記日程以外の見学も可能です。詳しくはお問合せください。

第2回オープンスクール

「入試問題を知ろう！」

10月15日(日) 9:30～13:00

学校説明、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート、入試過去問題解説(英語・数学)、入学相談会 など

第3回オープンスクール

「クラブ活動を知ろう！」

11月11日(土) 9:30～13:00

学校説明、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート、生徒によるクラブ紹介、クラブ見学、入学相談会など

問合せ先

皇學館高等学校 TEL 0596-22-0205(代)

4年ぶりに一般公開
第62回 倉陵祭
10/28(土)・29(日)



クラブ・有志団体による模擬店が復活！
展示・ステージ発表・子ども広場・お茶会・アーティストライブなど多彩な企画をお届けします。



倉陵祭に関する情報を随時更新
Instagram、X(旧Twitter)、HP

倉陵祭

問合せ ● 学生支援部 学生担当 TEL 0596-22-6317

非来館型サービス、企画展示が充実

コロナ禍を経て、図書館は大きく変わりつつある。その一つが、図書館の中に入らなくても図書館サービスが利用できる仕組み作りである。

令和4年11月に「EZproxy」という「学外リモートアクセス」の仕組みを導入したことで、これまで図書館や大学内でしか利用できなかったデータベースが、インターネットの環境さえあれば、どこでも利用できるようになった。これにより、大学が契約しているデータベース13種類、電子書籍約1100冊が学外でも利用可能となった。EZproxy導入後はデータベースの利用が増加しており、うち半数程度は学外からの利用とみられる。図書館入館者数は年々減少傾向にあるが、このような「非来館型サービス」の提供により、学修場所の制約がなくなり、学生の学修スタイルも柔軟に変化していると言える。

一方で、図書館施設の活用形態も変化している。図書館2階の展示コーナーでは、学生ボランティア「ふみくら倶楽部」が展示活動を継続しているが、それ以外の学生・教員からの展示希望も増加している。

皇學館では今年4月から一般利用者への入館も再開している。学生や教員の研究発表をぜひご覧いただきたい。

研究成果をいち早く知ることができる「宇治の町を掘る」発掘調査速報展



研究成果をいち早く知ることができる「宇治の町を掘る」発掘調査速報展

皇學館ライブラリー
KOGAKKAN LIBRARY
Vol.3

Active Student

高い志とチャレンジ精神をもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

梅村元香^(国史1)さんが「南拳」「南刀」で優勝

第40回全日本武術太極拳選手権大会

東京体育館で7月14日から16日にかけて開催された第40回全日本武術太極拳選手権大会。同大会の女子「南拳」「南刀」の部において梅村元香さん(国史1)が見事優勝に輝いた。

コロナ禍等で4年ぶりの出場となり、意気込んでいた矢先に足首を捻挫。大会1週間前まで松葉杖をつき、練習はおろか、歩くことさえままならなかったという。しかし、全日本という大舞台に出るチャンスを無駄にしたいと熱心にリハビリに取り組み、上半身を中心に粘り強く練習を重ねた。その結果、優勝に輝いた梅村さんは「諦めず継続すれば成功する」と喜びを噛みしめる。



10歳のとき、同大会の様子が偶然テレビで見たことをきっかけに武術を始めたという

太極拳は中国武術の一つであることから中国史及び東洋史への興味が湧き、学業への意欲も高まったと話す梅村さん。次なる目標は鹿児島県で行われる国体での入賞だ。少年から成年の部に移行するためこれまで以上にハイレベルな戦いとなるが、「一番の敵は自分自身」とストイックな姿勢にぶれはない。今後の活躍が楽しみだ。



「動作一つひとつに全身全霊をかける」と梅村さん

箱根駅伝予選会に向け 駅伝競走部が御嶽で強化合宿



箱根駅伝第100回大会予選会への参加表明からおよそ3カ月。寺田夏生新監督のもと、駅伝競走部の選抜16名が長野県の御嶽で強化合宿を行った。予選会に挑戦すると聞き、主将の毛利昂太選手(国史3)は「出雲駅伝の5日後とハードだが、やってみたい気持ちの方が強かった」、松野颯斗選手(現日4)は「最後の学年で出場でき、本当に運がいいと思った」と前向きにとらえた2人。合宿ではメンバー全員が一つの部屋に泊まったことでコミュニケーションが密になり、チームとしての結束力が一層高まったと話す。



意気込みを語る毛利選手(左)、寺田監督(中央)、松野選手(右)

予選会はハーフマラソンを走るこれまでにない戦いとなるが、「しんどい場面でも心折れることなく、関東勢に食らいついていきたい」と毛利選手。「一度きりの箱根駅伝予選会という舞台を楽しみたい。走るからには“濃紫の逆襲”で魅せる21.0975キロに」と気合十分だ。松野選手は「経験不足だからと言い訳はしたくない。きつい時でも粘り、1秒でもタイムを削っていく」と闘志を燃やす。寺田監督は「皇學館大学の代表としての誇りを持ち、悔いが残らないよう全力で楽しんで走ってほしい」と話し、「目標12位に向け、チーム一丸となって頑張ります」と決意を述べた。予選会は10月14日。彼らの走りに注目だ。

◆箱根駅伝予選会 10月14日(出) 9:35～ 陸上自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園の21.0975km 100回記念大会に限り地方の大学も参加可能になった(エントリー選手全員が10000m34分以内の公認記録を有していること)。チーム上位10名の合計タイムにより13校が来年1月の本大会の出場権を得る。

柔道部が5階級制覇! 8名が全国大会出場

第42回 東海学生柔道体重別選手権大会

8月27日に愛知県武道館で開催された第42回東海学生柔道体重別選手権大会において大学柔道部(男子)が7階級中、5階級で優勝する快挙を成し遂げた。10名の選手が入賞し、その内8名が9月30日から10月1日にかけて日本武道館で開催される「全日本学生柔道体重別選手権大会」(個人戦)への出場を決めた。また、10月21日・22日にベイコム総合体育館で行われる「全日本学生柔道体重別



全国大会でも活躍が期待される選手たち

男子7階級(60kg級・66kg級・73kg級・81kg級・90kg級・100kg級・100kg超級)

66kg級	優勝	澤田大輝(現日4)
73kg級	優勝	山村隆斗(教育4)
81kg級	優勝	若谷怜(教育2)
	準優勝	本木靖剛(教育4)
90kg級	3位	金山剛史(教育3)
100kg級	優勝	瀧川力(現日4)
	準優勝	南大志(現日2)
100kg超級	優勝	島健輔(現日4)

団体優勝大会」への出場権も獲得した。全国大会に向けて、山村隆斗選手(教育4)は「皇學館大学代表として、誇りを持って試合に臨みたい」と話し、佐藤武尊部長は「今こそ殻を破るとき。時代を変えるためには一瞬の勢いが大事。そのための準備を進める」と語った。彼らの活躍に期待したい。

大西泰地^(1年)さんが極真空手で初V

第28回 オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦 全日本少年少女空手道選手権大会

皇學館高等学校の大西泰地さん(1年)が6月24日、25日に大阪府立体育会館メインアリーナで行われた極真空手の「第28回オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦」に初出場。鋭いパンチを武器に全国から勝ち上がった22人によるトーナメント戦を制し、高校1年男子軽量級(60キロ未満)で優勝する快挙を成し遂げた。



初優勝の喜びを語る大西さん

「歴史ある大会で1回戦から判定を一つも落とすことなく優勝できてうれしい」と喜びを語る大西さん。所属する伊勢市内の道場「光武会館」で毎日2～3時間、サンドバッグの打ち込みや組手稽古に励んできた。始めたきっかけは幼稚園の課外授業。伝統空手と違い、相手に直接パンチや蹴りを入れる激しさに夢中になったという。また、礼儀作法が身に付いただけでなく、今大会においては「気持ちの切り替え方が勉強になった」とメンタル面の強化にもつながっているようだ。

次の目標は11月の大会で優勝すること。さらなる高みに向け、大西さんの挑戦は続く。

中村光里^(3年)さんが雑誌「CAPA」の月例フォトコンで1席

「CAPA」月例フォトコンテスト「学生の部」

カメラ・写真雑誌「CAPA」2023年9月号の月例フォトコンテスト「学生の部」で皇學館高等学校写真部の中村光里さん(3年)の作品「マネージャー」が1席を受賞した。



講評では「一見ありのままを撮ったようにも見えるが、美しい光が差し込む撮影場所、机の質感、道具の配置、ポージングと計算され、作り込まれている。マネージャーという縁の下の力持ちを舞台に上げ、スポットライトを当てた素晴らしい作品」と絶賛している。中村さんは「夏の地区予選大会を前にした6月に部室で撮らせてもらいました。3年生なので、その表情の中にマネージャーとしての自身と責任が感じられました。今回このような素晴らしい賞をいただけて嬉しいです」と喜びを語った。

大会結果

●全国高等学校総合体育大会「翔び立て若き翼」7/22～8/21

陸上部		
男子200m	馬場 優臣(3年)	準決勝進出 21.50
男子110mH	橋爪 蓮翔(2年)	準決勝進出 14.85
男子棒高跳	田中 大智(2年)	出場 4 m60
女子走幅跳	岡島 奏音(1年)	出場 5 m39
女子走高跳	浅井 琥桃(2年)	出場
男子 4×100m	小村 涼斗(3年)	出場
	馬場 優臣(3年)	
	倉井 星碧(2年)	
男子 4×400m	文珠 榮太(2年)	出場
	柳田 晴哉(2年)	
	岡 秀磨(2年)	
菅原 雅晴(3年)		

バドミントン部		
女子団体	森田 彩音(3年)	森本 麻愛(2年)
	牧 紗花(3年)	村井 菜音(2年)
	吉居 鼓(2年)	稲吉 礼有(1年)
	前田 愛心(2年)	世古口来海(1年)
女子単	前田 愛心(2年)	2回戦進出
	世古口来海(1年)	出場
女子複	吉居 鼓(2年)・世古口来海(1年)	2回戦進出
	森田 彩音(3年)・牧 紗花(3年)	2回戦進出
男子単	松本 准(1年)	出場

●全国高等学校総合文化祭 2023かごしま総文 7/29～8/4

写真部		
小谷 志代(3年)		出展
幸田 萌(3年)		出展

柔道部		
100kg級	上村 亮太(3年)	出場